

第122号/ ふじのくに静岡県

消防学校 ニュース



令和3年11月号

4月から9月までの初任教育が修了し、10月から他の教育訓練が本格的に始まりました。消防職員だけでなく、消防団員や防災関係者への訓練も3月まで実施していく予定です。

○消防職員への教育訓練

- ・幹部教育…初級幹部科、中級幹部科、上級幹部科
- ・専科教育…警防科、予防査察・危険物科、火災調査科、救急科、救助科
- ・特別教育…水難救助科（実施済み）、潜水土試験対策講習、処置拡大追加講習、女性吏員講習
指令センター員講習、実践的大規模災害対応講習

○消防団員への教育訓練

- ・幹部教育…初級幹部科、指揮幹部科現場指揮課程、指揮幹部科分団指揮課程
- ・専科教育…警防科
- ・特別教育…災害対策講習、女性消防団員研修会（実施済み）

上級幹部科(第20期)

～自分らしいリーダー像を
求めて～



令和3年9月29日（水）～10月1日（金）の3日間、上級幹部科を実施し、各消防本部の要を担う13人が入校しました。消防が直面する多くの課題に対し、効果的な消防行政を推進するため、管理職の役割（リーダー論）、安全管理、人事管理（女性活躍推進）、業務管理（情報政策、訴訟問題、報道対応）の多義にわたる講義や事例研究による意見交換を行い、組織全体を円滑に管理運営するために必要な知識や考え方を会得しました。

（担当教官コメント）

今回の教育訓練では、多彩な顔ぶれの講師陣による講義を通して、「管理職のあるべき姿、理想のリーダーとは」を考えてもらえたのではないかと思います。所属に戻った時に、学校での講義をヒントに、自分らしい管理職・リーダー像を求めていくとともに、今後の組織運営に活かしていただけたら幸いです。

教務課主査 飯塚 幸代（御殿場市・小山町広域行政組合消防本部から派遣）

救助科 (第38期)

～あらゆる災害に立ち向う～

令和3年10月4日(月)～10月29日(金)の約1か月間、消防職員専科教育救助科を実施し、県内16消防本部(局)から42人が入校しました。

救助業務従事者として専門知識と高度な技能・技術を備え、多様化する救助災害事案の対応力強化に重点をおき、安全管理を図りつつ応用力を発揮できることを目標に、厳しく、密度の濃い教育訓練を実施しました。県内消防本部(局)の救助隊員に訓練指導をお願いし、校外研修では清水港外港の埋立地や民間の施設なども訓練に使用させていただきました。



「災害救助犬静岡」と42人の精鋭部隊!!



訓練後のポジティブフィードバック



交通救助(廃車を利用した実践的訓練)



実火災体験型訓練





都市型ロープレスキュー



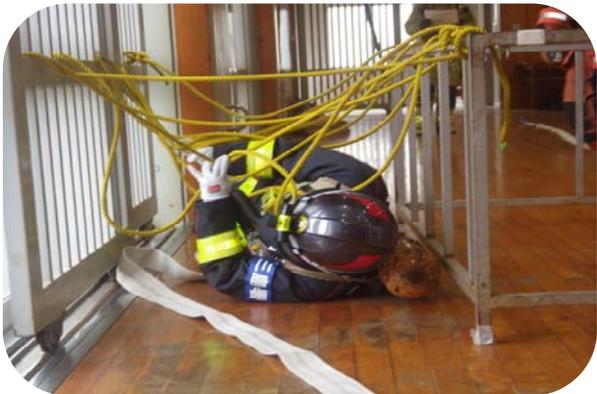
都市型検索救助



現場指揮要領（無線運用）



火災救助Ⅰ（VEIS・状況評価）



火災救助Ⅱ：緊急時対応（ファイヤー・ファイター・サバイバル）



車両構造及び交通救助対応要領（あいおいニッセイ同和自動車研究所）



震災時対応救助 (校外研修：藤枝消防署)



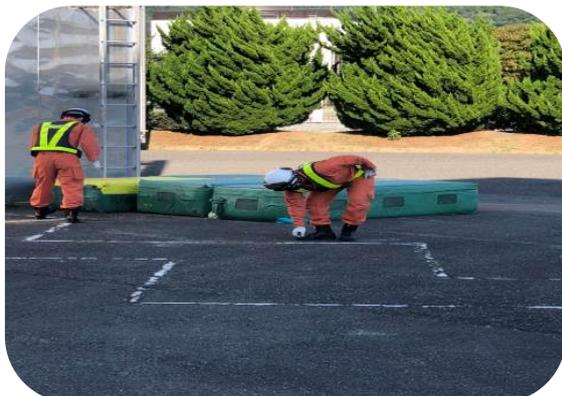
学生企画訓練 (企画・実施・評価)



土砂災害対応救助 (校外研修：興津埠頭)

今期入校生の見習うべき主体性の姿

(安全管理の心)
訓練開始前に訓練場の確認を実施



(思いやりの心)
赤ちゃん救出時に自分の服で保温を実施



(担当教官コメント)

入校生は 22 歳～38 歳と年齢及び経験値の幅は広がりましたが、基本から応用訓練に至るまで年齢に関係なく活発な意見交換が見られ、コミュニケーションが密な期であったと感じます。訓練ごとに振り返りを行い、仲間の意見や支援隊の方々からの講評で多くの「気づき」を得たことでしょう。また、ポジティブフィードバックを積極的に導入し雰囲気良く訓練が実施されました。

常に主体性を持ち、訓練だけでなく準備から片付けに至るまで積極的に行動し、私にとっても見習うべき姿を見させていただきました。救助科で得た「知識・技術・気づき」を各所属に還元し、時代と共に変化していく救助技術に取り残されないよう今後も情報共有を行い、御活躍されることを期待しています。

最後に、約 1 か月のカリキュラムを怪我も無く無事に修了したことは大変嬉しく思います。また、御支援、御協力いただきました全ての方々に感謝申し上げます。

教務課主査 早川 淳 (磐田市消防本部から派遣)

初級幹部科 (第23期)

同じベクトルのその先に・・・

令和 3 年 10 月 18 日 (月)～10 月 29 日 (金) の実質 10 日間、初級幹部科を開催し、県内 9 消防本部 (局) から組織の中核を担う 13 人が入校しました。

人事業務管理、消防時事、安全管理等に係る講義や事例研究発表、実火災訓練装置を使用したホットトレーニング、現場指揮能力の養成を主眼にした多数傷病者対応連携訓練など、多岐にわたる教育訓練を実施しました。

今期のカリキュラムは、部下の指導・育成にあたる初級幹部の皆さんに多様な視点も持っていただくとともに、自身の健康 (フィジカル、メンタル) や所属が抱える課題について今一度振り返っていただくことを目的に、消防以外の組織からも多くの講師を招き、熱のこもった講義をしていただきました。



(担当教官コメント)

所属の幹部候補として入校された皆様には、幹部としての心構えや新たな知識に加え、これからの生き方や業務に活かせる「気づき」を持ち帰っていただきたい、という思いでカリキュラムを構成しました。

すべての教科目に対し食欲に学ぼうとする姿勢、学生同士の活発なコミュニケーションが見られ、13 人のベクトルが同じ向きにあることを強く感じました。

今回の初級幹部科で得た「気づき」を所属に還元するとともに、今後の糧にさせていただけたら幸いです。皆様の今後の御活躍を期待しております。

教務課主任 土屋 裕一 (県職員)

初級幹部科・救助科合同(多数傷病者対応訓練)



学校だから大規模訓練ができる!



総勢55人

共通認識

情報共有



消防団員幹部教育指揮幹部科現場指揮課程(第8期)

～ 自ら考え 行動する ～



令和3年10月3日(日)に指揮幹部科現場指揮課程を開催し、県内の消防団員45人が入校しました。本課程では、コロナウイルス感染拡大防止のため、当初予定していた宿泊を伴う研修日程を見直し、単日開催としました。座学については、静岡県消防協会の松浦会長、静岡大学の牛山教授の講義などを動画配信し、開催当日は実科訓練中心の研修内容としました。主な内容は、火災現場で指揮を執るために必要な指示・命令の伝達要領や、各ブースに分かれての消火、救助、破壊及びドローン取扱い訓練など、多岐にわたる内容となりました。

(担当教官コメント)

災害現場において、指揮者として、自ら現場の状況を把握し、判断し、下命する。このような指揮者のための一連の訓練は、各団員にとって新鮮だったようです。研修後、「持っていた知識が一変した」、「考えて放水する重要性を学べた」等の声をいただき、担当として嬉しく思います。

コロナウイルス感染防止のため、終日マスク着用などの制限がありましたが、各団員とも積極的に訓練に取り組んでいただき、学びの多い訓練となりました。本課程で学んだ知識、技術を各所属へ持ち帰っていただき、地域防災力の向上に役立ててもらいたいと思います。

教務課主査 吉瀬 大介 (富士山南東消防本部から派遣)

消防大学校レポート 救急科第 83 期



入校式



授業風景



多数傷病者対応訓練



技能管理（訓練運営）



通常点検



卒業式を終えて

所感

令和3年9月29日（水）から10月28日（木）まで消防大学校救急科（第83期）に入校しました。世間がコロナ禍による自制、自粛を強いられているなかで、消防大学校も同様に厳しい規制が敷かれていましたが、その環境下においても充実した研修生活を送ることができました。

全国各地から48名の救急救命士が集い、業務管理、危機管理、報道対応など管理監督に係るもののほか、コミュニケーション技法、接遇要領など住民対応を目的としたもの等最新かつ多様な講義を受講しました。それに加え、NBC救急対応やDMAT連携の講義では、先進的な医療、救急技術を学ぶことができ、自分自身のスキルアップに繋がりました。

この度の研修で習得した最新の救急知識を、今後の消防学校における教育訓練に反映し、県内消防職員の技能のさらなる向上を図り、地域住民の身体生命を守ることに繋がるよう教官業務に務めていく所存です。

教務課主査 山田 友也（静岡市消防局から派遣）

太田校長のちょっといい話



今月は、静岡県新規採用職員の防災研修が実施されました。

県職員は、消防職員とは違い、基本的には災害現場等での活動はありませんが、南海トラフ地震等の大規模災害が発生すれば、現場での活動を行う場面も想定されることから、災害対応の基本的知識の習得を目的に研修を実施しています。

また、同時に、消防をはじめ警察、自衛隊、海上保安庁の職員が、いざというときに備え、厳しい訓練を日々行う事により、国や地域の安全、安心を守っていることを学んでほしいという思いもあります。(特に、今年は熱海市の土砂災害現場で、猛暑の中、懸命に救出作業にあたる救助隊員の姿を目にし、思いが強くなりました。)

さて、今月は、厳しい状況でも挑戦し続けた人の言葉から選んでみました。

「誰もが行きたがらぬところへ行け、誰もがやりたがらぬことを為せ」これは、アフガニスタンの復興に努め、銃弾に倒れた中村哲医師の言葉です。

アフガニスタンからの米軍撤退、それに伴うタリバンによる政権掌握のニュースを見ながら、彼がまだ生きていたらこの状況も見て、何を言っただろかと考えました。

1970年代のソビエト侵攻以来、内外での争いを続け、世界の最貧国となった国で、荒れた国土に用水路を掘り水を引くことにより、衛生状況の改善、食料の確保そして職の確保をすることが、多くの人を救えると考え、最悪の治安状況の中、自ら重機を運転し活動を続ける強い意志とその実行力は、使命感を超える何かがあったのだと思います。

きっと、現在のような状況であっても、後に続く若者たちに、この言葉をかけたのではないかと思います。

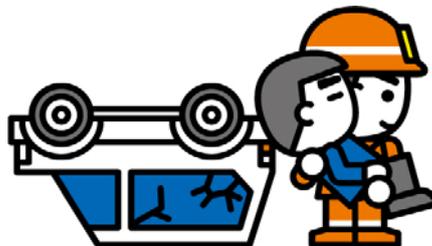
挑戦とは少し違いますが、**「どんな行動にも、必ずそれと等しい反対の反応があるものです」**万有引力をはじめ様々な発見・発明をしたアイザック・ニュートンの言葉です。りんごの木からりんごが落ちるのを見て万有引力をひらめいた人というのが一般的なイメージだと思いますが、ニュートン力学(慣性の法則、加速度の法則、作用・反作用の法則等)以外にも、微分積分法の開発、反射望遠鏡の発明など、近代科学における巨人である反面、錬金術に没頭したり、大学の講義が難しすぎて講義に学生が一人も来なかったり、他の研究者の誹謗中傷をしたり、人間的にはかなり問題が多く、敵も多かったようです。

多分、天才すぎて、一般人の考え方が理解出来ず、様々な反対や反発を受けていたのだと思いますが、作用・反作用の法則を発見し、人間社会でも行動に対して反対があると分かっていたのに、人の心理までは理解できなかったのかと思うと苦笑してしまいます。

この2人のように生きることは出来ないですが、人が嫌がることを率先して行う行動力と、多少の反対や妨害があっても信念を持って仕事に向き合う姿勢については、少しでも取り入れて行きたいと思います。



ソーシャルディスタンス



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail;

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

